

# 平成27年度 白河総合支援学校東山分校 学校評価アンケート集計結果(未回答も含み)

平成27年10月26日

教職員	回答 39/39				保護者	回答 109/111				生徒	回答 111/111			
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 生徒は自己目標にむかって学習に取り組んでいる	17.9%	71.8%	7.7%	2.6%	1. 子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	42.2%	43.1%	12.8%	0.9%	1. 今、現在の自分の目標がわかっている	50.5%	43.2%	3.6%	1.8%
2. 生徒は満足感や達成感をもち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	28.2%	66.7%	2.6%	2.6%	2. 子どもは専門教科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	29.4%	59.6%	9.2%	0.0%	2. 目標に向かって学習に取り組んでいる	50.5%	36.0%	10.8%	2.7%
3. 生徒は満足感や達成感をもち、教科の学習に取り組んでいる	10.5%	65.8%	21.1%	2.6%	3. 子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	14.7%	67.0%	14.7%	2.8%	3. 専門教科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	64.0%	23.4%	7.2%	5.4%
4. 生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%	4. 子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	35.8%	55.0%	4.6%	1.8%	4. 教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	56.8%	30.6%	8.1%	4.5%
5. 生徒に働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきている	15.4%	66.7%	17.9%	0.0%	5. 子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	32.1%	48.6%	16.5%	0.9%	5. 職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	58.6%	28.8%	9.9%	0.9%
6. 生徒は自分自身のことを肯定的にとらえている	7.7%	64.1%	25.6%	2.6%	6. 子どもは自分自身のことを肯定的にとらえている	15.6%	49.5%	27.5%	4.6%	6. 働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	36.9%	45.0%	11.7%	5.4%
7. 生徒の可能性を広げる活動を設定している	12.8%	61.5%	25.6%	0.0%	7. 子どもには様々な可能性があると思う	55.0%	40.4%	3.7%	0.9%	7. 自分のことが好きである	29.7%	24.3%	25.2%	19.8%
8. 生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	10.3%	74.4%	15.4%	0.0%	8. 子どもには一生懸命になれる活動がある	39.4%	46.8%	13.8%	0.0%	8. 自分にはできることがたくさんある	36.0%	31.5%	22.5%	9.9%
9. 生徒のことが理解できている	12.8%	69.2%	17.9%	0.0%	9. 子どものことが理解できている	19.3%	66.1%	13.8%	0.0%	9. 自分には一生懸命に取り組んでいる活動がある	47.7%	29.7%	15.3%	7.2%
10. 生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導に当たっている	35.9%	56.4%	7.7%	0.0%	10. 子どもの自己肯定感が高まっている	21.1%	49.5%	26.6%	1.8%	10. 自分のことを理解してくれる人がいる	56.8%	24.3%	14.4%	3.6%
11. 生徒は友達の考え方や個性を尊重し、認め合っている	10.3%	61.5%	23.1%	5.1%	11. 子どもは友達に対して思いやりをもち、認め合っている	32.1%	56.9%	11.0%	0.0%	11. 自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている	35.1%	27.9%	22.5%	13.5%
12. キャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	5.1%	66.7%	25.6%	2.6%	12. 子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がなされている	22.9%	59.6%	12.8%	3.7%	12. 友達の考え方や個性を理解し、認め合うことができる	40.5%	40.5%	10.8%	7.2%
13. 生徒は自分から積極的に挨拶をしている	17.9%	53.8%	25.6%	2.6%	13. 子どもは自分から積極的に挨拶をしている	36.7%	42.2%	18.3%	1.8%	13. 先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	58.6%	30.6%	7.2%	3.6%
14. 生徒の得意なことを把握している	20.5%	71.8%	7.7%	0.0%	14. 子どもは自分の得意なことに気づいている	23.9%	45.9%	27.5%	2.8%	14. 自分から元気よく挨拶ができる	45.9%	31.5%	17.1%	5.4%
15. 生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	10.3%	56.4%	30.8%	2.6%	15. 子どもは朝ごはんをきちんと食べている	63.3%	22.0%	10.1%	3.7%	15. 自分の得意なことがよくわかっている	55.9%	29.7%	9.0%	4.5%
16. 生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	23.7%	60.5%	13.2%	2.6%	16. 子どもには日常的に清潔にするように促している	50.5%	45.0%	1.8%	2.8%	16. 朝ご飯をきちんと食べている	63.1%	17.1%	9.9%	8.1%
17. 生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	13.2%	73.7%	13.2%	0.0%	17. 子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	46.8%	41.3%	8.3%	2.8%	17. 清潔にすることを心がけている(例えは、入浴、着替え、汗をふくなど)	68.5%	25.2%	5.4%	0.9%
18. 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	25.6%	61.5%	12.8%	0.0%	18. 子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	38.5%	35.8%	21.1%	4.6%	18. 学校のきまりや約束を守っている	50.5%	29.7%	13.5%	5.4%
19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	27.0%	59.5%	13.5%	0.0%	19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	18.3%	58.7%	20.2%	1.8%	19. 家庭で決まった役割(例えは、お手伝い)があり、実行している	54.1%	26.1%	9.0%	10.8%
20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	23.1%	61.5%	7.7%	7.7%	20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	22.9%	66.1%	10.1%	0.9%	20. 企業の協力があり、職場実習などができることに感謝している	62.2%	28.8%	5.4%	3.6%
21. 休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	24.3%	62.2%	10.8%	2.7%	21. 子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	30.3%	39.4%	24.8%	3.7%	21. 地域の協力があり、地域との活動ができることに感謝している	59.5%	25.2%	8.1%	7.2%
22. 生徒や保護者に短期目標や評価について、適切に伝えている	22.2%	63.9%	11.1%	2.8%	22. 短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	31.2%	52.3%	11.9%	2.8%	22. 休日は趣味やスポーツ、サークル活動などにとりくんでいる	51.4%	20.7%	10.8%	17.1%
23. 生徒や保護者からの個別の相談に適切に対応している	37.8%	54.1%	5.4%	2.7%	23. 個別相談について、学校は保護者に適切に対応している	33.0%	54.1%	8.3%	1.8%	<b>【生徒】</b>				
24. 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	18.4%	63.2%	15.8%	2.6%	24. 保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	30.3%	62.4%	6.4%	0.9%	①約9割の生徒が、学習の目的を理解し、その目標に向かって取組んでいると評価している(1.2)				
25. 保護者に、参観・懇談・学習会等に積極的に参加するように促している	22.2%	58.3%	16.7%	2.8%	25. 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	24.8%	43.1%	28.4%	3.7%	②約9割5分の保護者が、子どもの可能性を感じているが、多くは明確化されていない(7.9)				
<b>【教職員】</b>					③多くの保護者が、基本的な生活習慣の確立できるように子どもに促している(15.16.18)					③約9割の生徒が、仲間、地域、企業等と良好な関係であり、その存在の大きさに気が付いている(20.21)				
①概ね肯定的な評価であるが、「大体そう思う」という回答が多く、自信のなさや不安等、達成感度が低い(7.8.12.24)					④約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)					④約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)				
②生徒の実態把握やキャリアプランに基づく指導や支援について、適切な検証を進める必要がある(1.2.3.5.6.7.9.12.14)					⑤自分の良さを実感し、自己を肯定的に見られる生徒の割合が約6割程度を若干低い(7.11)					⑥自分の良さを実感し、自己を肯定的に見られる生徒の割合が約6割程度を若干低い(7.11)				
③生徒の学習や生活について教職員の評価が低い様子がうかがえる(1.13.17)					⑦約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑧約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
④生徒の家庭生活に関する指導が学校で十分に行えていないと考える教職員が多いことがうかがえる					⑨約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑩約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
<b>【保護者】</b>					⑪約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑫約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
①教育方針や実践に対して、概ね肯定的な評価であるが、「大体そう思う」であり、更に丁寧な説明や情報提供を行う必要があると考える(2.3.4.8.12.22.23.24)					⑬約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑭約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
②約9割5分の保護者が、子どもの可能性を感じているが、多くは明確化されていない(7.9)					⑮約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑯約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
③多くの保護者が、基本的な生活習慣の確立できるように子どもに促している(15.16.18)					⑰約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑱約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				
④懇談会や学習会の充実を図る必要がある(12.25)					⑲約7割の生徒は、余暇活動に取組んでいる(22)					⑳約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16.17.18.19)				

**【3者のまとめ】**	③自己受容・自己評価に関する項目について、生徒の肯定的な回答率が高いが、保護者、教職員の回答率とに開きがある。	⑤企業の連携・協働における成果を認めつつも、その学習環境の設定については改善の余地があると、保護者は考えられている。あまり設定していないのでは、と思われている回答率の高さが予想以上である。

<tbl\_r cells="3" ix="1" maxcspan="1" max

# 平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立白河総合支援学校東山分校)

## 1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力(働く力の向上と言語活動の充実)
2. 豊かな心の育成(文化的な教科・活動の充実と支え合う仲間作り)
3. 健やかな体の育成(仕事をやり遂げる体力の充実と安全意識の向上)
4. 独自の取組(学びの環境をデザインする)

## 2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価					学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成27年10月14日	評価者・組織	学校評価委員会	評価日	平成27年10月26日	評価者(いずれかに○)
1 確かな学力	専門教科・共通教科・実習の充実  自ら考え、表現し、他者に伝える力の育成	振返りや気づきを基にして教科や専門教科につなげる  ・来校者に学校説明のプレゼンテーションや専門教科での説明や案内を行う ・地域協働活動での説明、宣伝活動、振返りを行う	・「できた」「うれしかった」といった達成感や充実感を感じている  ・オープンキャンパスや学校見学等の参加回数 ・地域協働活動への参加回数 ・修学旅行生の観光案内回数 ・PTA陶芸教室回数	「そう思う」「大体そう思う」職場実習:89%,専門教科:872%,教科:86%  ・オープンキャンパスは前期に10回実施 ・地域協働活動は1か月に10回程度実施 ・観光案内4回 ・陶芸教室3回	分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	・教科や専門教科での課題や評価が適切に生徒に伝わっていない場合がある ・オープンキャンパスの案内や専門での説明を自分の言葉で説明しようとする生徒が増えている ・臨機応変な対応ができる生徒もいる	・職場実習、専門教科、教科の指導者の連携を密にして、評価と課題を生徒に理解できるように説明する ・生徒が案内や説明のマニュアルを作り、改定を繰り返す ・自らの変容に気付くためにビデオで様子を記録したり他者評価とのり合わせ	・生徒が見通しをもち、主体的な活動が見られるようになった。 ・生徒自身のキャリアプランについての理解や活用が十分とはいえない ・職場実習に対する教職員の捉え方が弱い	・生徒による事業の定期開催や運営を任す場面を作りたい ・日々の教育実践がキャリア発達を促していると教職員が評価できるよう仕組みがいる	
					→	→					
2 豊かな心	企業や地域との協働活動を通じた豊かな心の活動と育成  自己肯定感の向上	・コミュニケーションの充実を図る ・職場実習 ・高齢者体操教室、配食サービス、ディサービス介助、読み聞かせの協働活動  ・多様な人との関わり ・職場実習 ・高齢者体操教室、配食サービス、ディサービス介助、読み聞かせの協働活動	・企業や地域の協力に感謝の気持ちを持っているか ・自分にはできることができたくさんある	「そう思う」「大体そう思う」企業:91% 地域:84% できること:67%  ☆	→	→	・企業や地域の方との活動について達成感や満足度が高く感謝の気持ちにつながっている ・自己肯定感を適切に育成することが課題である ・地域協働の回数が増え、地域の小学校、保育園との交流も広がった ・指導者がいなくても自分から地域の方と話ができるようになってきた	・企業や地域の協力による活動の成果を生徒が客観的に気づける振り返りの場を設定する ・生徒に対してプラスの評価を積極的に行う ・地域にとって大きな戦力となっており、地域として大変感謝している。	・地域協働の内容が明確になってきた。 ・大きな地域行事を通じて地域と学校、生徒との連携が深まった。 ・地域にとって大きな戦力となっており、地域として大変感謝している。	・地域協働を進めるにあたり、地域や学校・生徒の両者の良さが更に引き出せるよう協力していくたい。 ・多様な生徒が活動できるように、学校と連携しながら、場の提供や協力できることを考えていきたい。	
					→	→					
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	食生活や衛生に関することへの呼びかけ	・朝ご飯を食べている ・清潔を心がけている ・家庭で役割を担う	「そう思う」「大体そう思う」朝食:80% 清潔:93% 役割:80%	→	→	・朝食を食べていない生徒が数名あり、課題である ・清潔に関して、自ら気づき、実際どの程度までできているかが課題である	・就労生活に向けて、自分で食生活を整えられるよう指導を計画的に進める ・衛生に関する指導と支援を継続して行う	・保護者の協力や理解が得られていると感じる。		
					→	→					
4 独自の取組	学びの環境の多様化  情報発信の充実	・学校祭を地域協働の一環としての位置付け ・生徒会活動の充実	・新たな地域の方との関係性を築く ・自主的な活動を促すマスコットの決定・エコキヤップ運動・挨拶運動等	・区・保・小・中・ティ等からの48名参加 ・新たな活動に取り組めている ☆	→	→	・多様な人々と多様の関わりにより、生徒の達成感があつた ・次に繋がる活動や目標を見据える ・学校の様子だけでなく行事や施設利用の案内などこまめに更新する	・取組について何のために何をするかについての教師間の情報共有を確実にする ・生徒自らの活動を情報発信できる取組を進める	・生徒をできる存在として捉え、主体的に活動できる場面を作る	・地域も同じ歩調で関わっていきたい。 ・お手伝いをしてもらっているではなく、一緒にする感覚で接する	
					→	→					